

みと好文カレッジ情報

～生涯学習社会の構築を目指して～ Vol.6

平成26年3月31日発行
発行所 水戸市教育委員会
みと好文カレッジ
〒310-0852
水戸市笠原町 978 番地の 5
水戸市総合教育研究所 3 階
電話 029 (303) 6602
F A X 029 (303) 6601

M a i l koubun@pluto.plala.or.jp
U R L
<http://business2.plala.or.jp/koubun>



話すことよりも聞くことが大変

はじめは恥ずかしかったけど
自信がついた

ロールプレイをやってみよう

面接にも使える「ミユカUP講座」
君にスキルを倍返し
講座の様子

大学生を対象に、対話の手法や社会人になる上で必要とされるマナー等を、ロールプレイを交えて学習しました。



就活にも
活かせるね

マナーや敬語
って難しいけど
ためになるなあ



対話の手法を学ぼう

目を合わせるって大事だね

みと好文カレッジは…

市民の皆様の生涯学習を応援します。何かを始めてみようと思ったとき、何をするか迷っているとき、一人では第一歩を踏み出すのに勇気が必要です。こんなときに、みと好文カレッジがお手伝いします。各市民センターの定期講座情報や「あなたも師・達人制度」からの講師紹介など、生涯学習の羅針盤になればと思います。

みと好文カレッジの主な事業紹介



親業訓練講座

妊娠期の母親、乳幼児から高校生までのお子様を持つ親を対象に親と子の間に心のかけ橋を架けるためのコミュニケーション手法を学びます。

みと好文カレッジでは、“全3回の入門コース”と“全8回の一般コース”を開催しています。



入門コース 『親には役割があるの?』



往来しぐさ『傘かしげ』

江戸しぐさ



江戸の町人社会では、皆が平和に繁栄し、孫子の代まで幸せに暮らせるようにと、経営や生活に関するさまざまな知恵が生み出されました。これを「江戸しぐさ」と言います。本事業では、小中学生を対象に講座を開催し、社会の秩序やモラルを感じとることを目的としています。



ほっとひといき夢らんど

家庭教育支援事業の一環として、1才6ヶ月から3才までの子供と親を対象に様々な講座を通し、育児に対する悩みやストレスを解消し、子育てを楽しみ家庭教育とあわせて子育て支援を推進することを目的としています。

毎年5月に募集を行い、6月～翌年3月まで原則毎月第一木曜日に開催しています。



『遊んで学ぼう 魚釣り』



若返り健康塾～毎日をいきいきと豊かに暮らすために～
『いつまでも若々しくさっそうと生きる生活術』

好文塾



市民センター職員とみと好文カレッジ職員の研修事業です。私たちが心豊かに生きていく上で学習する必要のある課題(環境, 生命, 健康等)を取り扱った講座をみと好文カレッジと市民センターが共同で企画・立案し、市民対象事業として開催しています。

今年度は、南部ブロックと「若返り健康塾～毎日をいきいきと豊かに暮らすために～」を、緑岡市民センターとは「親子の幸せ応援講座～心地よい関係を築こう～」の2講座を開催しました。

さきがけ塾

私たちの住むまちを笑顔にあふれ、快適に暮らせるような魅のまち・水戸のまちづくりについて考えていくことを目的に、学習講座(学習プログラム)づくりを学ぶ2年継続の講座です。

何かを学びたい・・・学んだことを実践し、人のために役立てたい人が集う講座です。

現在、さきがけ塾は第2期生が学習しています。第3期生は平成26年9月頃に募集をいたします。

詳しくは、みと好文カレッジのホームページやチラシ等でお知らせいたします。

さきがけ塾2年間の流れ

1 年次

さきがけ塾では、学習テーマ別にコースを設定。

1年次は、水戸市の現況や都市構想を基に水戸の魅力発見、課題の見出し方、学習プログラムの作成の仕方等を10月から翌年9月までの1年間、約20回の講座で学びます。

行列の出来るチラシ作り講座→



1 年次まとめ

コース毎にいくつかのグループに分かれ、学習講座(学習プログラム)を作成します。その中からプレゼンテーションで選ばれたコース別の1講座ずつを「塾生企画講座」として市民対象に開催します。

プレゼンテーションの様子→



2 年次

専門的な学習を中心に、1年次のまとめとして実施した「塾生企画講座」を振り返り、より現実的な学習プログラムづくりを10月から翌年9月までの1年間約20回の講座で学びます。

シニアの生きがい探し→



2 年次まとめ

コース毎にグループで作成した全部の学習プログラムを「塾生企画講座」として市民対象に開催します。

1期生塾生企画講座

「創年のための今をMOT楽しむために」→



修了式

出席率が概ね7割以上の方を修了者と認定し、修了書を発行します。修了者は、**水戸市生涯学習サポーター**として登録することができます。

修了式の様子→



水戸市生涯学習サポーターとは

みと好文カレッジの依頼のもと、行政との協働により、みと好文カレッジや市民センターが主催する社会の要請に応じる学習講座(学習プログラム)の企画・立案、運営に携わります。

水戸市生涯学習サポーターとの協働企画講座

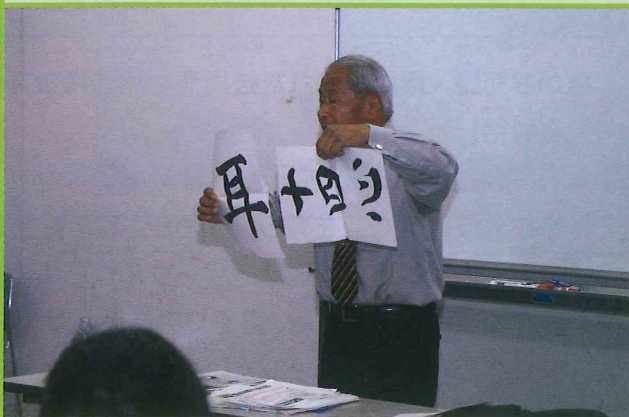
現在、水戸市生涯学習サポーターには24名の方が登録しております。平成25年度はみと好文カレッジとの協働企画で、6つの講座を開催しました。

いっぱいあるよ「水戸のよさ」
～お宝再発見～



水戸の名所やイベントなどを知り、水戸の魅力を再認識し、郷土への愛着を深めました。

「いじめ」
～いじめる子・いじめられる子・知らん振りの子～



社会問題化している深刻な「いじめ」について、問題解決に向けての方策を探りました。

親の知らない子どものネット社会
～大人がすること！できること！～



インターネットのトラブルから子供を守るため、子供を取り巻くインターネット社会の現状を学びました。

生きる力は未来への力
～メシが食える大人になるために～



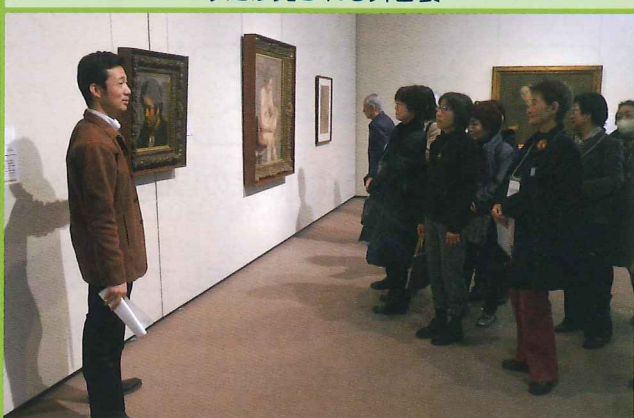
生きる力が大切とされている今、子供の生きる力を育てるための方法、ヒントを学びました。

あなたの声であの名作を



教科書教材を中心に、声を出して読むことにより作品の良さを深く味わいました。

ちょっと贅沢 プレミアムツアー
～今だけ見られる舞台裏～



水戸市中心街にある文化施設の利用の仕方や展示にまつわる工夫、舞台裏の説明をとおり、新たな施設の魅力を発見しました。



みと好文カレッジの生涯学習支援制度



みと好文カレッジでは様々な制度を整え、皆様の生涯学習を支援しています。

あなたも師・達人制度

豊かな知識・経験・優れた技術や才能を持つ方を講師や指導者として登録・紹介する制度です。

【登録資格】

- 1 18才以上の方。
- 2 特技や技術・知識を有し、市民の生涯学習を支援できる方。
- 3 有償・無償に拘らず地域やサークルからの要請があった場合、指導できる方。



※登録を希望される際には、最寄りの市民センター及び内原中央公民館・水戸市教育委員会事務局生涯学習課及びみと好文カレッジまでお問合せください。

【講師を紹介してほしい】

- (1) みと好文カレッジまでお問い合わせください。
- (2) 講師に関する詳しい情報をお知らせします。
- (3) 講師には、ご依頼者が直接交渉し、日程・謝礼等を調整してください。
- (4) 講師をお願いした場合は、お手数でも、みと好文カレッジまで、結果をお電話でご連絡ください。

育児ボランティア制度

子育て中の親が、生涯学習活動に参加しやすくなるよう、みと好文カレッジに登録している育児ボランティア「えくぼ会」のみなさんが、別室で一時的にお子さんをお預かりする制度です。

講演会などに参加している親はもちろんのこと、お子さんや育児ボランティアのメンバーも一時保育(託児)という時間の中で貴重な経験をし、生涯学習を実践しています。

また、育児ボランティアの応募も随時受け付けています。



学習相談

みと好文カレッジでは、市民の皆様の生涯学習に関する学習相談を受け付けています。

- <例>
- ①パソコンを習える所を探している
 - ②どこかグループで活動できる場所を探している
 - ③昔あそびができる講師を探している等

お気軽にご相談ください。



—みと好文カレッジゆかりの地を訪ねて—



修復後の弘道館記碑（弘道館八卦堂内）

藩校弘道館は、天保12年（1841年）に水戸城三の丸内（現在の所在地は三の丸1丁目6番内）に創設された日本最大級の藩校です。文武両道を教育方針とし、儒学のみならず、幅広い教育が行われていました。

弘道館は、水戸藩第9代藩主である徳川斉昭（1800－1860）によって建設されました。斉昭は、藩校弘道館を建設するにあたり、弘道館建学の趣意を示す記文（弘道館記）の作成を行います。その際に、斉昭より命じられ起草を行ったのが、藤田東湖（1806－1855）です。

東湖が起草した弘道館記は、幕府の儒官佐藤一斎、弘道館教授頭取の青山延子、会沢正志斎らが検討し、天保9年3月に斉昭の名で公表されました。

記文が完成すると、弘道館記碑の製作が開始されます。記碑には、「弘道者何 人能弘道也 道者何 天地之大經（弘道とは何ぞ。人よく道

藤田東湖が携わった藩校弘道館① ～藩校の精神的なシンボル 弘道館記碑～

を弘むるなり。道とは何ぞ。天地の大經にして…」という問答から始まり、「忠孝一致」「文武一致」「学問事業一致」「神儒一致」「治教一致」という五つの建学の精神が刻まれました。

石材には、久慈郡真弓山（常陸太田市）の寒水石（大理石）が選ばれました。彫刻は天保10年（1839年）に始められましたが、途中記文の字句の修正などもあり、完成したのは2年後の天保12年（1841年）となりました。

弘道館記碑は、敷地の中央に建立され、水戸藩の学問・教育の精神的な拠り所となりました。

このようにして建てられた弘道館記碑ですが、現在に至るまで2度破損し、その度修復が行われてきました。

1度目の破損は、昭和20年（1945年）の空襲によるものです。この時は、記碑の覆堂である八卦堂が全焼してしまったため、戦後しばらくは露天にさらされることになってしまいました。修復は、はじめに、昭和28年に八卦堂を復元し、さらに、弘道館記碑の碑身をコンクリートで覆う形で保護修復しました。そして、昭和47年（1972年）には、背

面を除くコンクリートの除去や、亀裂への樹脂の充填といった、碑身を補強する修復作業が行われました。

2度目の破損は、平成23年（2011年）3月11日の東日本大震災によるものです。この大規模地震災害で、碑身の一部が砕け、動かすと全体が崩落しかねないという状況となりました。修復は、ジャッキアップを行い、八卦堂の外に運び出しての大きな作業となりましたが、同年11月には無事修復が完了しました。この修復作業では、背面コンクリートや台石を覆っていたコンクリートを除去して、本来の姿に近づけました。

現在、弘道館記碑は大切に守られており、弘道館建学の精神を次世代に伝えています。



▲ 藤田東湖像

※生誕の地である旧みと好文カレッジ跡地に建てられています。

（水戸市梅香1-2-20地内）